

## [24\_02]九州大学大型計算機センター広報表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1470188>

---

出版情報：九州大学大型計算機センター広報. 24 (2), 1991-03-15. 九州大学大型計算機センター  
バージョン：  
権利関係：

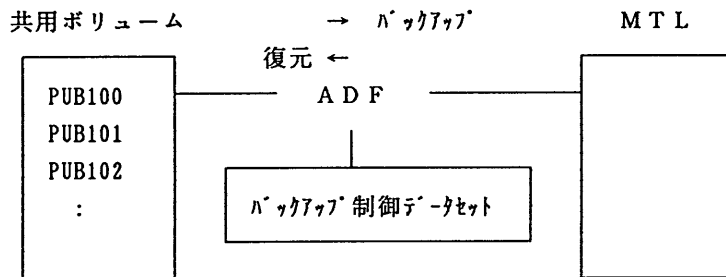
## 計算機一言アドバイス

システム管理掛 平野 広幸

### ・データセットの管理について（その5）

今回は、「センターの自動バックアップシステム」についての処理概要と、誤ってデータセットを消去した場合等の利用者によるデータセットの復元について説明します。

センターでは、利用者が共用ボリューム上に新規作成および更新したデータセットをADF（Advanced Data migration Facility）[1, 2]の自動バックアップ機能を用いてMTL（磁気テープライブラリ装置）[3]にバックアップしています。下図に自動バックアップのシステム構成図を示します。



自動バックアップのシステム構成図

バックアップはボリューム毎に毎日行われ、ボリューム内のデータセットで新規作成されたものや更新されたものだけがバックアップされます。1つのボリュームがバックアップされると次のボリュームの処理が行われます。このように次々とバックアップされ、バックアップの対象となるボリュームがなくなるとその日のバックアップ処理は終了します。従って、バックアップが終了した後に作成・更新したデータセットは自動的にバックアップされません（翌日にバックアップされる）。また、バックアップの対象となるデータセットは新規作成および更新したデータセットであるためRENAMEコマンドでデータセット名を改名したのもバックアップされません。このような場合、確実にバックアップをするためには、次に示すHBACKDSコマンドを入力します。

HBACKDS データセット名 [ WAIT .]

WAIT: バックアップが完了するまで待つことを指示する。

また、データセットをバックアップから復元するには次に示す%HRECOVERコマンドを使用します。

%HRECOVER 復元したいデータセット名

・このコマンドは、データセット全体を復元しますので区分データセットの1メンバだけを復元することはできません。区分データセットの1メンバを復元する場合には次のように行ってください。（コマンドの先頭に%が付かないので注意）

HRECOVER 復元したいデータセット名 NEW(仮データセット名) WAIT

仮データセットにバックアップの内容が復元されますのでCOPYコマンドでメンバ単位に復元します。

COPY 仮データセット名(メンバ名) 復元したいデータセット名(メンバ名) NONUM

その後、仮データセットは必要なければDELETEコマンドで消去します。

DELETE 仮データセット名

最後に、データセットのバックアップ版は、データセットを消去した日から14日間は保存されていますが、このバックアップ版はADFおよびMTLを使用したシステムにあるため、ADFや媒体テープの障害等でデータセットが復元できない場合があります。大切なデータセットのバックアップは利用者自身で磁気テープ等に確実にを行うようにしてください。その他、データセットのバックアップおよび復元についての質問等はシステム管理掛(内線 2518)までお問い合わせください。

#### 参考文献

1. 計算機マニュアル ADF運用手引書 V11用(79SP-4170-1)。
2. 計算機マニュアル ADF使用手引書 V11用(79SP-4160-1)。
3. 計算機マニュアル F6455 磁気テープライブラリシステム解説書(97HP-7200-1)。